

8) 大高根地域（河西）

最上川に注ぐ小河川の河岸段丘に発達した縄文の大集落、最上川舟運の舟番所、葉山への参詣口山の内



図 17. 大高根地域の指定文化財

とみなみ
・富並村

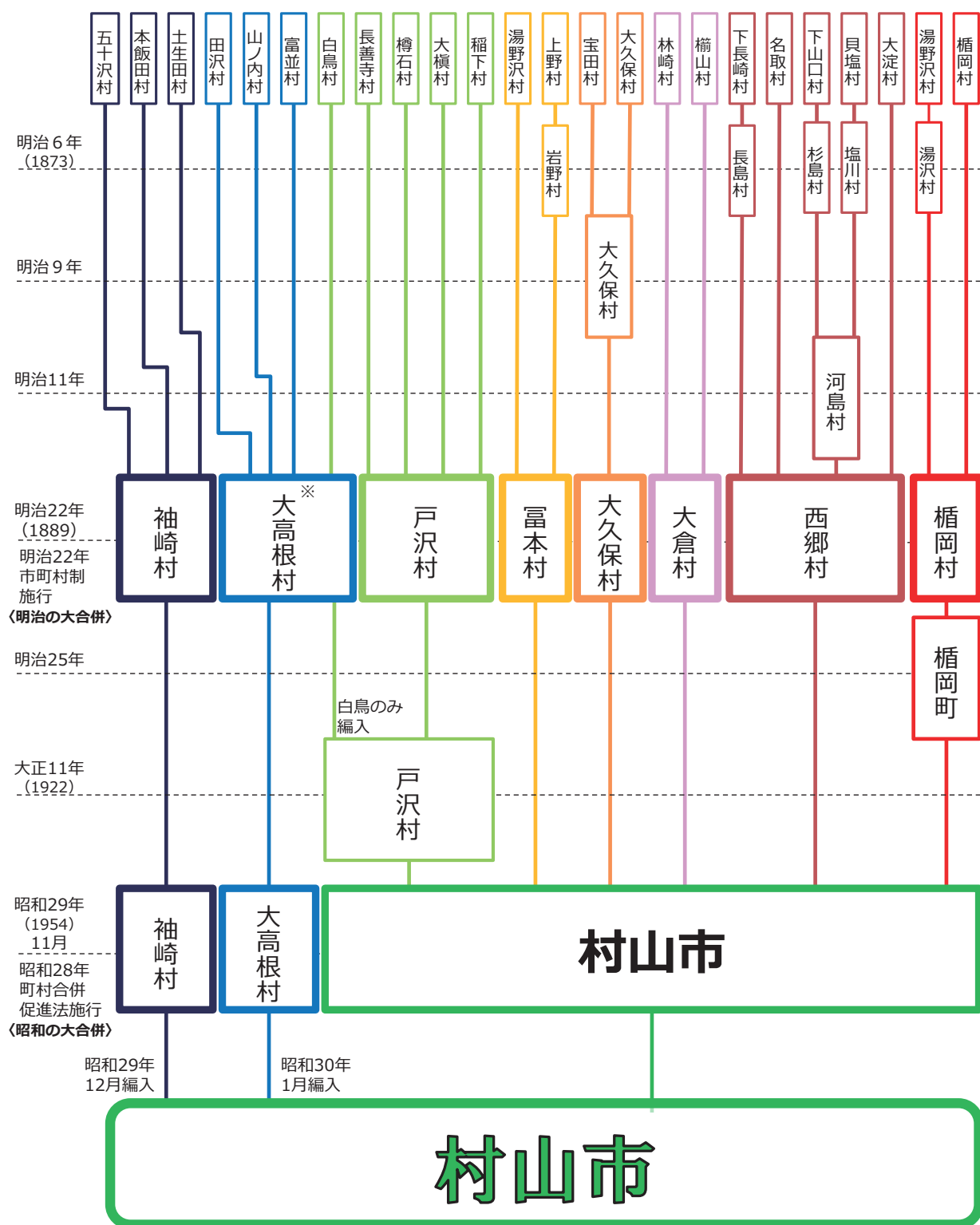
江戸時代初期には最上家家臣留並彦一郎の所領とされ駒居村と呼ばれていました。『吉村本村鑑』には「富並村、古来駒居村ト言」、『新田本村鑑』には「駒井村、今改富並村（中略）元和八年公儀よりの御書付には富並と有る故ニ宝暦八寅年正月願之上又富並に改るなり」とあり、それ以前は駒居（井）村であったようです。最上氏領から元和8年（1622）新庄藩領となり、下谷地郷に属しました。『吉村本村鑑』によると、枝郷として西町・小滝・深沢・里村・境ノ目・森村・早房・中山・富並の9か所があげられています。『天保郷帳』には駒井村との枝郷として境之目村・小滝村・深沢村が記されています。明治3年（1870）の『郷村高帳』によれば威鉄砲運上銭三貫800文・山運上銀75匁・刈草山運上銀15貫320匁・諸職人運上161匁・小商人運上銭1貫728文を上納しています。『万記録』（寺崎文書）によると、安政3年（1856）の富並村の産物は大豆670俵・蕎麦350俵・小麦70俵・小豆60俵・粟30俵・楮1500貫匁・里漆実1000貫匁・紅花半駄・青苧100貫匁とあります。

最上川の舟運に際しては隼の瀬の近くに船番所を設けて係役を派遣し、御用船を備えて積下船の通過を確認し、「当村早房無滞通船仕候」と報告することとなっていました。枝郷小滝・境ノ目は最上川三難所の曳船人足集落として知られています。

やまのうち
・山内村

富並川上流に位置し、葉山参詣口の一つでした。最上氏領から元和8年（1622）新庄藩領となり、下谷地郷に属しました。同年の『御前帳写』によれば、駒井村と山内村を合わせて富並と記されています。『新田本村鑑』によると、宝永6年（1709）の枝郷として大鳥居・赤倉・ト小屋・升沢が記されています。『天保郷帳』には枝郷として大鳥居村が記されています。明治3年（1870）の『郷村高帳』によれば小商人役銭216文・威鉄砲運上銭300文・山運上銀53匁5分と銭53文・諸職人運上銀21匁を上納しています。

村山市域の町村変遷の流れ(明治以降)



※横山村も含む。横山村と田沢村の一部は明治34年に分離して横山村（現大石田町）に編入した。